第１表の２　　学校名　鷹南学園三鷹市立東台小学校

２　教　育　目　標

（１）　学校の教育目標

○　よく考える子ども

（汎用性のある知識・技能の習得　思考力・判断力・表現力　学びに向かう力等の知力の育成）

○　健康な子ども

（主体性、自己肯定感、心身の健康を保持増進する力等の体力の育成）

◎　思いやりのある子ども

（規範意識、相互理解力、親切心、礼儀、勤労、かかわりをもって行動する力等の徳力の育成）

これらの目標を達成するため、「問題発見・解決能力」や「自己調整力」を育成する。また、自分の考えや気持ちを適切に相手に伝えるための「言語能力」、課題解決に必要な情報を獲得し、適切に活用するための「情報活用能力」の育成も目指す。また、「規範意識」や「思いやりの心」を育むとともに、「自己肯定感」「自己有用感」も高めていく。

（２）　学校の教育目標を達成するための基本方針

コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育を構成する小学校として、その理念と使命を受け止め、鷹南学園としての取組を推進する。地域人財との関わりの中で、学園の学校を核としたスクール・コミュニティを創造する。また、児童・保護者が安心して過ごせる学校づくりを第一に考え、教育課程を編成する。

ア　「よく考える子」の育成

（ア）様々な教科の学習や児童の関わりの中で、「問題発見・解決能力」を発揮できるようにする。そのために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行い、自ら課題を見付け学び、考え、解決できる場面を設定する。また、デジタル学習基盤（学習用タブレット端末、校内学習サイト、学習支援ソフトウェア等）を活用するなど、授業改善に取り組み、どの児童にも、児童・生徒一人ひとりの可能性を最大限にその力が発揮できるよう、多くの場面を設定する。

（イ）自分の力のよさを最大限に発揮し、自らよりよい行動ができるようになるための学習も含めた生活全般に関わる「自己調整力」を育成する。そのために、児童が自ら学習目標を設定して学び、振り返って次に向けた計画を立てる力を育み、達成感を得るプロセス評価も大切にしていく。また、デジタル学習基盤を最大限活用し、個別最適な学びと協働的な学びを実現するとともに、体験的な活動も含む「教科横断的な学習」を「鷹南学園版小中一貫カリキュラム」に基づきマネジメントする。

（ウ）「言語能力」の育成に向けては、学習だけでなく、全ての教育活動を通して、児童が自分の考えを表現する場面を意図的に設け、育成を目指す。

（エ）「情報活用能力」は、デジタル・シティズンシップ教育の考え方の下、情報モラルやデジタルリテラシーの育成、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用しながら高める。

（オ）中原小学校・第五中学校の教員と学園研究を通して授業を参観し合うことで、授業改善に取り組み、持続可能な学園研究を実施する。

（キ）「ドリルタイム」や「みたか地域未来塾」等の基礎・基本の徹底や乗り入れ授業の発展的な取組を有効化できるように学園の教職員の連携を図る。また、支援の一層の充実を図るため、スクールサポーターによる協働体制を深める。

イ　「健康な子ども」の育成

（ア）東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の結果を公式サイトから確認するよう通知を出し、保護者と共有し、地域人財を連携しながら、体力向上を図る。体力調査の結果を踏まえ、課題である「握力」「持久力」「俊敏性」に対する取組を重点的に行う。体育部を中心に具体策を検討し、授業改善を図るとともに、保護者、地域も児童の体力向上について、共に考える機会を継続して設ける。

（イ）生活指導部を中心とした校内委員会の強化、生活指導夕会の充実を図る。また、通常学級と教育支援学級（知的固定）との交流・連携を充実させることによって、児童一人ひとりに応じた丁寧な支援・指導を行い、教育支援の充実を図る。

（ウ）「学校２０２０レガシー」として、長縄や短縄、持久走の全校での取組や地域人財と連携した体験教室など、体を動かす楽しさなどを味わうことで、生涯スポーツの基礎となる運動する心地よさを体感し、生涯に渡って運動に親しむ資質・能力を育成する。また、体育の授業等においても、活動の難易度や役割を調整し、児童が成功体験えられるようにする。

（エ）不安や悩みに対処する力を身に付けさせるとともに、自分が困ったときに助けを求められるようにし、自ら心の健康を保ち、安定した生活を送ることができるようにする。

（オ）児童・生徒が「食」に対して関心をもち、自らの健康と食とのつながりを理解しながら感謝して食べることができるよう、食育の充実を図る。

ウ　「思いやりのある子ども」の育成

（ア）小・中一貫生活指導や「ＳＮＳ東台ルール」などの具体的な取組の充実を図り、規範意識や義務・責任を果たそうとする態度、自律心・自制心を育成する。

（イ）保幼小の連携や縦割り班活動、地域との協働による学びなど、多様な関わりの中で、児童それぞれが成長の機会となるよう、交流活動における目的を明確にし、年間計画の評価・改善を行う。児童が互いに理解し合い、主体的に考え、思いやりをもって行動できるように活動を充実させる。

（ウ）「特別の教科　道徳」の授業の充実を図るとともに、道徳教育推進教師のリーダーシップのもと、保護者・地域と連携して、公共心や社会性、相手の気持ちを考えられる豊かな心を醸成していく。また、「三鷹平和の日」の制定に伴う「平和教育月間」をとおして平和教育を行い、児童一人ひとりに恒久的な平和を追求する意識を醸成する。

エ　地域との共有及び連携

（ア）学校評価アンケート等から課題をとらえ、コミュニティ・スクール委員会、地域学校協働本部と連携を強化し、児童や学校を支える保護者や地域、関係団体等との学校教育目標、経営方針の理念、取組の基本方針を共有することで、教育活動の質を向上させる。

（イ）地域行事やボランティア活動への参加を通して、多様な人と協働しながら地域に貢献できることに喜びを感じられる児童・生徒を育成し、ボランティア・マインドの醸成を図る。

（３）　コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育校としての重点

ア　学校の教育目標と学園の教育目標の関連

目指す学校像を「みがく（自主・自立・自律）かかわる（共生・協働）未来をひらく（創造）」とし、学園の教育目標である「地域に根ざし、夢と希望をもち、ともに学び、未来を切り拓く」とも関連させながら、「自己調整力」等の主体的に学校生活が送れるようにするための資質・能力を育成する。児童一人ひとりや学級の状況に応じて、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図りながら、学園の教育目標を実現する。

イ　組織的な授業改善による学力の向上

（ア）「鷹南版小・中一貫カリキュラム」を有効活用した９年間の系統性をもった学習指導を通じて、鷹南学園の児童・生徒に育むことを目指した「自己調整力」の育成を図る。その資質・能力を育成するために、学園研究を通して、小・中の教員が日常の授業を創造し、評価、改善点について学び合うなど、学園の教員の連携を深める。

（イ）全学年でカリキュラム・マネジメントの視点から、「鷹南版小・中一貫カリキュラム」等、意図的、系統的な指導の充実を図る。

（ウ）全国の学力調査や三鷹市学力調査等を、児童自身が振り返る材料として活用し、デジタル学習基盤

を有効活用した学びを推進する。また、授業改善推進プラン、スクールサポーターやみたか地域未来塾の活用、小・中相互乗り入れ授業、家庭と連携した「鷹南スタンダード（学習のスタンダード）」の活用、読書習慣の定着など、地域人財と連携した個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。

ウ　組織的な生活指導による教育支援の充実

（ア）保護者会や学校便り・ホームページ等を活用して、小・中一貫生活指導の内容を示した「鷹南スタンダード（生活のスタンダード）」を浸透させ、各家庭の協力を得る。また、鷹南学園の小学校・中学校でも一貫して指導する。

（イ）校内委員会で、知的固定学級の教員やスクールカウンセラー等と連携しながら、いじめや不登校、特別な支援が必要な児童・保護者へ丁寧な対応をする。

エ　組織的な児童一人ひとりの体力の向上

（ア）東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の結果や「すこやかタイム」の取組を、家庭との連携を深めながら行い、運動習慣や生活習慣を向上させる。

（イ）児童が体育科の見方・考え方を働かせた深い学びが展開できるようにするとともに、体力調査の結果を考察・分析し、体育の授業と連動させた体育的活動の実践により生涯スポーツの資質・能力の基礎を育成する。

（ウ）体育の授業改善を図り、個別最適な学びや協働的な学びの充実を図り、主体的・対話的で深い学びを実現する活動を通して、体を動かすことの楽しさや心地よさを味わえるようにする。

（エ）「学校２０２０レガシー」の活動を生かし、様々な運動やスポーツへの多様な関わりをもち、生涯にわたって健康を保持増進し，豊かなスポーツライフを実現するなど、自己の健康体力を向上させる。

オ　カリキュラム・マネジメントによる徳力の向上

（ア）道徳や特別活動、他の教科等のカリキュラム・マネジメントを進めることにより、全教育活動において、一人ひとりのよさを互いに認め、寄り添う気持ちや協力する心を涵養する。

（イ）「考え、議論する道徳の学習」を展開できるように授業改善し、多角的、多面的にとらえ、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する。

（ウ）小学校６年生における学園合同自然教室の実施に向け、１年生から段階的な小・小交流を教科横断的な視点と、継続と発展を可能にするため、児童の実態に合わせた内容を検討し、実施する。

（エ）学園内の小・小交流や小・中交流、地域団体との交流授業や学校農園での生産活動、「学校２０２０レガシー」としての国際理解教育とともに、外国語教育の充実のためのＩＣＣＰによるキハ小との交流等、地域社会との関わりの中で、人権尊重、いじめ問題、情報モラル等の今日的な教育課題にも対応できる力を育成する。